ここが楢山

〈母を語る〉

小津安二郎

青空文庫

母は明治八年生れ。三男二女をもうけて、僕はその二男に当る。他の兄妹は、それぞれ嫁をもらい、嫁にゆき、残った母と僕との生活が始まってもう二十年以上になる。

一人者の僕の処が居心地がいいのか、まだまだ僕から目が放せないのか、それは分らないが、とにかく、のんきに二人で暮している。

母は、朝早く夜早く、僕はその反対だから家にいても滅多にめしも一緒に食わない。

去年頃までは、なかなかの元気で、一人で食事の支度から雨戸の開けたて、僕の蒲団の上げおろしまでやってくれたが、今年から、いささか、へばって家政婦さんに来てもらっている。無理もない。八十四である。人間も使えば使えるものだと、つくづく思う。それにしても、五十五や六十の定年は早すぎる。

今住んでいる家は、北鎌倉の高みにあり、出かけるのも坂があるので、母は滅多に家から出ない。ここがもう楢山だと思っているらしい。

若いころの母は大女の部類で、今でも年の割には大婆の方である。負ってはみないが重そうである。

たらちねの母を背負いてそのあまり
重きに泣きて楢山にゆく

ここが楢山なら、いつまでいてもらってもいい。負って行く世話がなくて、僕も助かる。

（「週刊朝日」昭和33年8月10日号）

青空文庫情報

底本：「小津安二郎映畫讀本　［東京］そして［家族］」フィルムアート社
　1993（平成5）年9月25日初版発行
　1993（平成5）年11月12日第2刷
初出：「週刊朝日」
　1958（昭和33）年8月10日号
入力：sogo
校正：仙酔ゑびす
2014年1月1日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ここが楢山

〈母を語る〉

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　小津安二郎
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/